

平成28年度第2回環境審議会

議事録

平成28年7月29日(金)

足立区役所8階 庁議室

(開催概要)

平成 28 年度第 2 回足立区環境審議会
議事録

会議名	平成 28 年度第 2 回足立区環境審議会		
開催年月日	平成 28 年 7 月 29 日		
開催場所	足立区役所南館 8 階庁議室		
開催時間	午前 10 時から正午まで		
出席状況	委員現在数 15 人 出席委員数 12 人		
出席委員	百田 真史	ぬかが 和子	小泉 ひろし
	馬場 信男	さの 智恵子	戸苅 建作
	佐藤 強士	茂木 福美	田邊 治代
	長谷川 京子	古地 八重子	石川 義夫
事務局	環境部長、環境政策課長、生活環境保全課長、ごみ減量推進課長、		
会議次第	別紙のとおり		
会議に付した議題	審議事項 1 地球温暖化対策専門部会の検討結果について 審議事項 2 人づくり・自然環境専門部会の検討結果について 審議事項 3 第三次足立区環境基本計画の施策体系(案)について 報告事項 1 2015 年度の区内のエネルギー使用量について 報告事項 2 地球環境フェア 2016 の開催結果について		

(会議経過と議事の要旨)

副会長	本日は田中会長が欠席なので私が進めさせていただく。 会議に先立ち、委員に変更があったので事務局にご紹介をお願いします。
事務局	区議会並びに事業者団体から選出された委員の一部に変更があったので、ご紹介させていただく。区議会から新たに馬場信男委員、さの智恵子委員が選出された。また、足立工業会連合会から新たに瀬田章弘委員が選任されたが、本日は都合により欠席されている。
副会長	まず、本日の出席委員を確認する。委員定数 15 名、出席委員数 12 名で本日の審議会が成立していることを報告する。 本日の議事録署名人は、ぬかが和子委員、長谷川京子委員に願います。 それでは、配布資料の確認について事務局をお願いします。
事務局	事前送付資料は、「平成 28 年度第 2 回足立区環境審議会資料」及びファイルにつづられた専門部会の検討結果報告(「足立区環境審議会人づくり・自然環境専門部会検討結果報告」、「足立区環境審議会地球温暖化対策専門部会検討結果報告」)の 2 種類である。 本日席上に、次第(裏面は委員名簿)環境基本計画体系の骨格の部分、また、区で作った夏の節電のすすめというパンフレット、東京都が作った私たちが使う電気の環境性というパンフレット、及び第 1 回環境審議会の議事録を配付した。 資料の不足があれば事務局までお知らせいただきたい。 資料の確認は以上である。
副会長	審議事項 1「地球温暖化対策専門部会の検討結果について」事務局より説明をお願いします。
事務局	審議会資料 1 ページをご覧ください。「地球温暖化対策専門部会の検討結果について」1 開催日時、2 専門部会構成委員は記載のとおりである。本審議会からは、百田副会長が地球温暖化対策専門部会部会長として参加していただいている。3 検討結果について、(1)「区内のCO2 排出量の削減目標値を設定」ということで、2024 年度(第三次環境基本計画の計画期間)は前回 2013 年度比 22.3%減、2030 年度(国の計画期間に合わせたもの)は、前回 2013 年度比 34.5%減という検討結果が出ている。(2)柱立て 1『地球温暖化・エネルギー対策』の施策体系案を検討していただいた。2 ページの(3)区が重点的に取り組むべき項目について、1 省エネルギー家電等の導入促進、2 住宅・建築物の省エネルギー化の推進、

3 行動やライフスタイルの変革に向けた普及啓発の推進の 3 点をご議論いただいた。

上記をイメージしていただくために、別添ファイルの「足立区環境審議会地球温暖化対策専門部会検討結果報告」をご覧ください。1 ページ目の削減目標については、今回の環境基本計画は地球温暖化対策地方公共団体実行計画を兼ねるので、前述の削減目標を検討した。国の温暖化対策計画の目標は 2030 年度に 2013 年度比で 26%削減、東京都は 2030 年までに 2000 年比 30%削減である。したがって、専門部会が出した 2030 年度 2013 年度比 34.5%という数字に対してどういった目標を立てるかについてもご議論いただくかたちになろうかと思う。

2 ページは、34.5%削減の内訳である。区が主体的な取組みで牽引する CO₂削減として、省エネ機器の導入、住宅や建築物の省エネ化、省エネ行動の推進をすることで 34 万 t の削減。国や都と連携しながら進める CO₂削減対策は、その他の省エネとして産業部門、運輸部門で技術や設備の導入、自動車省エネ化等で 18 万 1,000t の削減。主に国が進める CO₂削減対策は電源構成の変化で 39 万 6,000t の削減。合計 91 万 8,000t の削減で、34.5%の削減を見込んでいる。

3 ページは、基準年の 2013 年度の実績は 255 万 8,000t である。対策を何もしないケース (BAU) だと 259 万 3,000t (1.4%増)となるが、対策後は 167 万 4,000t (34.5%減)になる。

6 ページは「重点項目 1 省エネルギー家電等の導入促進」についてである。現状は、省エネ家電・LED 照明の購入費用補助、集合住宅改修時の高効率照明導入に対する購入費補助を行っている。省エネ機器はどこ家庭でも利用できるの、買い換えを進めることで省エネ化が図れるのではないかと考えている。国は、2030 年までに高効率照明の 100%普及を目指しているの、LED 照明の一層の導入促進、また、それらの補助制度には、財政的な制約がある等が挙げられる。「方向性と具体的な施策のイメージ」として、CO₂削減効果に応じた補助体系の見直しが挙げられているが、これは別添資料 2 の各専門部会の意見番号を反映したもので、例えば「意見 4」を反映して補助制度利用者への調査による効果の把握が挙げられている。そのほかにも、申請方法の簡素化等の利用しやすい仕組みづくり、また、補助によらない普及ということで、事業者と連携した情報提供(でんき家計簿、家電コンシェルジュ等)や、効果を

	<p>数字でわかりやすく示すことによる買い換え促進等が挙げられた。</p> <p>7ページ「重点、項目2 住宅・建築物の省エネルギー化の促進」として、現在は既存建物の改修時に省エネ設備（高性能建材、遮熱塗装、HEMS、蓄電池）を導入する者への補助制度を実施している。また、区では「足立区建築物エネルギー対策ガイドライン」を作成して活用を呼び掛けている。課題としては、改修時のみでなく新築時の省エネ対策促進が必要であるということ。なお、ガイドラインは任意なのであまり機能していないのではないかと等の意見があった。また、今後国が新築建築物における省エネ基準適合の義務化を予定している。方向性としては、既存建物の省エネ改修を促すための誘導策が検討されたが、専門部会では、建物全部ではなく例えば、最も利用頻度の高い居間のみを改修してそこに集まって過ごすというようなことや、省エネモデル住宅の展示等が挙げられた。また、まちづくりの機会を捉えたエネルギーの面的活用の促進として、「花畑エリアデザイン計画」で新たなまちづくりによるエネルギー・環境対策の誘導等の意見も出ている。</p> <p>8ページ目、「重点項目3 行動やライフスタイルの変革に向けた普及啓発の促進」として、現在は、地球環境フェア、省エネキャンペーン、ガイドブック作成等で啓発している。また、国のクールチョイス等の国民運動と連携した取組みも行っている。課題としては、より効果的な多様な啓発の必要性や、ライフスタイルの転換を阻害する要因を把握し、それを取り除く方策の必要性がある。また地球温暖化、エネルギーと資源循環、生物多様性保全等につながる啓発の必連携した区民向けの啓発、省エネ意識が低い若年層や男性に対する取組み不足が挙げられた。方向性としては、国の普及啓やクールネット東京と連携した取組み、生活の場面や年齢層等ターゲットを絞った啓発の必要性、子どもに省エネ行動を習慣づけること、事業者と連携した省エネ行動の拡大（でんき家計簿、エコクッキング等々）また地域課題の同時解決につながるような取組みの必要性として、クールスポットを設置することによって高齢者の熱中症対策、孤立防止、地域コミュニティづくりにつなげていくこと、あるいは大学と連携した若年層への取組みといったものが挙げられた。</p> <p>審議事項1については以上である。審議をお願いした。</p>
副会長	<p>私は部会長だが、CO₂は今後国の省エネ政策で減っていくと予測されるが、この部会では足立区の味つけとして、特に重点的に進め</p>

	<p>ていく目標値を定め、そのためにやることを整理した。今後どのように実効力を持たせるかについてもかなり重点的に議論した。例えば、買い換えについて「もったいないがもったいない」という感覚をどうやって共有していくのか。あるいは各種補助の継続性を持たせること、また、効果のあるなしをどうやって見極めていくのかといったことも含めて、補助制度のあり方まで議論を進めたので、今後この審議会でも議論すべきことが固まってきたのではないかと考えている。この検討結果についてご意見、ご質問をいただきたい。</p> <p>やるべきこととして数字を出すということがあった。今後そこをどうするのが肝になっていくのではないかと思う。</p>
委員	<p>区民として参加しているが、昨日、皆さんに足立区が環境についていろいろ考えているという話をしたら、足立区はそんなに考えているのという意見を聞いた。区民にはまだ浸透していないと思った。数字的な難しい話はわからないが、足立区が日本一の環境を目指しているという取組みを浸透させるには、どうするかたちで入っていけばよいのか。</p> <p>以前、団地住民に会を設けていただいてお年寄りに関心を持ってもらったこともあるが、今度は若い方も含めてどうしたらいいかということを考えている。私がひとりの委員の立場で言っても無理なので、役所の方に入ってきていただいて啓発したらいいのではないかと、また数字ではなく単純な話から入っていく方法などがいいのか、足立区の取組みをみんなにわかってほしいので試行錯誤して考えている。</p>
副会長	<p>区民にどうやって伝えるかというのは、まさに我々が進めていかななくてはいけないところである。これは次の人づくりの部会につながっていくところだと思う。</p> <p>他にご意見は、ありますか？</p>
委員	<p>私は、補助を受けて太陽光発電を設置したが、電気使用量と太陽光の売電価格をノートにつけているので、補助を受けた人がその後どうしているか調べることが大事だという意見には同感した。この方策は進めていったほうがいいと思う。</p> <p>小学校の道徳の授業では人とのかわりを考えさせる冊子を使っている。環境については学年を決めて授業の中で行っているが、学年を問わずに子どもたち全員が環境について考えることのできる冊子を作って、道徳の時間を使って意識を持たせたらいいのではないか。</p>

副会長	データとしてきちんと見ていく必要があるということと、道徳教育やどうやって人に伝えていくかというご意見であったと思う。
委員	<p>1点目は目標値についてである。国の削減手法に足立区を合わせて設定した2030年に34.5%という数字は立派で頑張らなければならない数字だと思う。前回目標数値を決めたときに、CO₂排出量は電源構成や排出係数に左右されるので、自治体や区や住民の努力がわかる目標も設けようという議論があったが、今回もそういう目標を置いてもらいたい。また、日本で一番を目指すと言っている以上、国よりももう少し積極的な目標を持ってほしい。</p> <p>2点目は、区が重点的に取り組むべき3項目についてはよいと思うが、あとの議論の柱の部分から「エネルギーを生む」という側面が消えている。大都市ではエネルギーを生むよりも省エネ効果のほうがはるかに大きいのはわかるが、自治体がPRするなど重視しないとなかなか見えてこない分野でもあるので、エネルギーを生み出すという部分と、公共施設の木質化による間伐材の利用や森林保護も強めてほしい。これは後の人づくりにもつながる分野だと思う。</p>
副会長	まさに我々の反省すべき点で、別添5ページにグラフがあるが、見せ方が不十分であった。再生可能エネルギーがなくなっているわけではない。どうやって見せていったらいいかというのが今後の課題である。
事務局	創エネについてはやらないわけではない。国の算定の中にはこの部分を入れている。施策体系の具体的な取組みの中で例示して進めていかなければならないと認識しているので、体系や具体的な方向性の中でご議論いただければと思う。
委員	<p>重点1の省エネ家電の促進について、昨年度も補助制度は好評で7月くらいに終わってしまった。今年度は2,000件の枠があるが現在どのくらい申請があるのか。</p> <p>また、私も「でんき家計簿」をやっているが入力を怠り気味である。「でんき家計簿」は自分の電気の使い方を判断するととてもいい材料だとは思いますが、貯めたポイントが使いにくいので、区民事務所で申請したものを受け取れる等、区民が利用しやすいサービスにしてほしい。</p> <p>家電コンシェルジュとは何か。興味があるので教えてほしい。</p>
事務局	省エネ家電の補助金枠は、今年度は2,000件であったが、既に約1,900件の申請があったので、枠を1,000件増やして3,000件とした。

	<p>「でんき家計簿」は区ではなく東京電力がやっている。家電コンシェルジュも電機業界が作っているものである。各事業者が同様の仕組みを作っている。東京電力はオブザーバーとして専門部会に加わっていてこのような意見が出たので、記載した。</p>
副会長	<p>区としてインセンティブを持たせる取組みもあるので、それに関しても部会の中で議論があったが、やる人が固定化されているので形骸化が懸念される。どこかの時点で卒業していただいて、新しい人を巻き込んでいくのが課題である。</p> <p>では、審議事項2「人づくり・自然環境専門部会の検討結果について」事務局より説明していただきたい。</p>
事務局	<p>審議会資料3ページをご覧ください。「人づくり・自然環境専門部会の検討結果について」、1開催結果、2構成については記載のとおりである。3検討結果(1)「人づくりについて」、基本的な考え方として、環境教育等促進法に基づく「行動計画」に位置づけることを考慮して整理した。また、柱立ての施策体系案を検討した。重点的に検討する項目として、「重点1 子どもたちへの環境学習の推進」、「重点2 環境を学ぶ施設やメニューのさらなる拡大」、「重点3 自主的な環境活動を広げる」、「重点4 リーダーの育成」の4点をご提案いただいた。</p> <p>4ページは、(2)「自然環境保全について」、基本的な考え方として、生物多様性地域戦略への位置づけを考慮して検討していただいた。また、柱立ての施策体系案について検討していただいた。重点的に検討する項目は、「重点1 公園を活用した取組みの展開」、「重点2 区民参加型調査の展開」、「重点3 生物多様性に対する理解促進」の3点である。</p> <p>別添の「人づくり・自然環境専門部会検討結果報告」1ページをご覧ください。(1)基本的な方針として、政府は「目指す持続可能な社会」、「求められる人間像」、「取組みの基本的方向」を定めている。区は、それを踏まえて、に対しては「地球にやさしいひとのまち」として位置づけた。先ほどお渡しした体系図は、すべて行動計画等々に位置づけができる。については「地球環境を意識して、未来のために自発的に行動するとともにその輪をひろげていく」、については「すべての『ひと』が環境について共に学び、行動するしくみをつくる」をそれぞれ定めた。</p> <p>2ページは、(2)施策体系と(3)重点的に検討する項目を審議した。</p>

3 ページ目以降が「重点項目1 子どもたちへの環境学習の推進」についてである。区で現状の取組みとしては、学校教育と連携した取組み(「環境スタートブック」、夏休み子どもエコプロジェクト、キッズISO等々)を行っている。学校外での取組みとして、環境かるた大会、中学生対象の環境講座「環境スペシャリスト養成講座」がある。その他の子ども向けには、環境絵本の配布、自然体験・自然観察会の機会提供に取り組んでいる。課題として、未就学児、小学校低学年、中学生への取組みが不足していること。行動が継続でき、成果の把握が容易な取組みが求められていること。地球温暖化対策が中心であり、生物多様性等他分野の取組みについての部分が少ないのではないかと、といったことが挙げられた。方向性としては、学校教育と連携したメニューを充実するとして、教職員向けの講座・研修会の実施、発達段階に応じたプログラムの実施、未就学児と保護者対象の学習機会の提供、保育士自らが実施できるプログラムの提供、子ども向けの自然体験・観察機会の拡大等が挙げられた。

「重点項目2 環境を学ぶ施設やメニューのさらなる拡大」として、現状でも公園等における農業体験や自然観察会の実施、あだち再生館における環境講座の実施、「あだち環境ゼミナール」開催、講師派遣、清掃工場見学会等を実施している。課題としては、公園や施設をガイドできる人材が不足しているのではないかと、また、講座や観察会の参加者が限られる、自然環境分野以外のメニューが少ない等がある。方向性としては、入門編、理解編、専門編といった段階的学習機会を提供してはどうか。気候変動・資源循環等も含めた総合的なプログラムへ発展させてはどうか。地域学習センター等で開催される環境以外の講座にも環境の視点を盛り込んではどうか。また、区の既存施設はネットワークに含まれていないので、スタンプラリー等のしかけなど、各施設の講座等への参加を促す取組みをしたらどうかといった意見が出た。

「重点項目3 自主的な環境活動を広げる」として、現状では愛護団体が緑の保全、地域団体が花いっぱい運動、事業者が自主的な美化活動に取り組んでいる。また、区ではエコ活動ネットワーク足立(EANA)を組織している。課題としては、区が事業者・団体の活動の現状を把握していないのではないかと。団体間の相互連携が足りないのではないかと。また、団体間の温度差の大きいことが挙げられる。方向性としては、事業者・団体のデータベース化を進め、区との連

携促進の取組みをする。町会等の既存組織と事業者・団体が連携して環境活動を促進するような仕掛けも必要ではないか、といったことが挙げられた。

6 ページは、「重点項目4 リーダーの育成」である。現状は、あだち環境ゼミナール修了者を環境マイスターに認定し、中学生向けに「環境スペシャリスト養成講座」を実施している。また、桑袋ビオトープ公園では大人向けの公園管理ボランティア、子ども向けのビオレンジャーを実施し、ボランティア活動を行う人材を育成している。課題としては、あだち環境ゼミナール修了者をマイスターと認定しているが、それはリーダー育成を想定しておらず活躍の場も不明確であること。また、さまざまな講座を開設しているが参加者が伸び悩んでいる。方向性としては、リーダーの役割、目的を整理して育成する必要がある。また、既に活動している人材を把握してリーダーとして活躍してもらってはどうかという意見が出た。

7 ページは、「2 自然環境保全について」である。基本的な考え方として、新計画は生物多様性地域戦略に位置づけなければならない。国で言う地域戦略は、対象とする区域を明確にし、目標を定め、総合的かつ計画的に講ずべき施策を定めなければならない。それに加えて計画期間中に目指す姿を地域戦略として位置づける。足立区は自然環境保全の基本的な考え方と地域戦略の基本項目を合致させるようなかたちで、この区域は足立区全体、目標は人と自然が相互に関わっていることを認識し、多様な生物と共生できるまちを作る。については「自然環境・生物多様性の保全」の施策体系をもって施策として位置づけ、それに加えてについては「みどりや水辺環境が保全され、豊かな自然環境と便利で快適な都市機能が調和したまち」をめざすべき姿として定める、というかたちで整理した。

8 ページの「自然環境・生物多様性の保全 施策体系(事務局案)」は審議事項3で説明させていただく。

9 ページは、「重点項目1 公園を活用した取組みの展開」である。現状は、年間7、8ヶ所の公園リニューアルを実施し、特色ある公園作りを推進している。課題としては、公園整備と生物多様性の保全の両立、地域の多様なニーズの調整が挙げられた。方向性としては、地域住民や学校が参画した公園整備や、生物多様性に配慮した公園作りを行う。また、生物多様性に配慮した公園作りをしていることを説明するような看板等を設置してはどうか。また、区に

	<p>はさまざまな公園があるが、それがどういうかたちで生物多様性の学習に使えるかといった説明が不足しているので、学校が公園を活用して体験・学習するために、そういった部分のプログラムを提供する必要性等が検討された。</p> <p>10 ページは、「重点項目2 区民参加型調査の展開」である。現状は、野鳥モニターによる鳥の調査、河川生物調査を実施している。また、生きものの写真を投稿できる「あだち自然ガイド投稿編」を運営しているが、投稿データが少ない。方向性として、もっと多く投稿していただくことで自然に目を向けてもらえるのではないか。その結果を分析し、フィードバックする必要性も論じられた。また、子どもを対象とする体験学習を兼ねた生きもの調査の必要性も検討された。</p> <p>11 ページ「重点項目3 生物多様性に対する理解促進」。生物多様性そのものがまだ知られていないのでパネル展示や講演会を実施しているが、なかなか広まらない。ビオトープ公園等で直接触れることのできる自然体験の場を設けるなど、生物園、都市農業公園等で掲示や講座を実施している。課題として、生物多様性という言葉を知らない人が多く、具体的なイメージがわからない。したがって、子どもたちに説明することが難しい。方向性として、環境問題を啓発する際に生物多様性にも触れて言葉の認知度を上げる取り組みが必要。小学4年生に配布している「環境スタートブック」に生物多様性も盛り込んでどうか。区職員も知らない人が多いので、区職員への啓発、区施設での取り組み促進、日々の暮らしと生きものつながりが実感できる啓発ツールの作成、生物園、都市農業公園、桑袋ビオトープ公園等を活用した普及について検討がなされた。</p> <p>審議事項2について以上である。</p>
副会長	<p>人づくり・自然環境ということで非常に範囲が広い中で、考え方を整理して施策の頭出しをしていただいた。施策の全体像は審議事項3で行いたいので、今説明した範囲でご意見があればいただきたい。</p>
委員	<p>子どもたちへの環境学習の推進について、現在30歳の娘が小学生の頃には、竹の塚センターに集まって、獨協大学の先生が竹ノ塚周辺の自然の説明をしてくれ、最後にどんぐりや木の破片等で工作をする催しが年に4回広報で募集された。親も子も勉強になり、その後子どもが植物に興味を持つようになった。やはり子どもへの環境学習は大事だと思う。そういう取り組みに参加する親はいつも同じ</p>

	<p>人が多かったので、親に対する啓発も必要だと思う。足立区は生物園や農業公園等のいい環境があるので、それを利用していくとよいと思う。私は環境マイスター 1 期生だが、大変いい講座なのに講座だけでやめてしまう人がいるのもったいない。受講者がだんだん減っているが、毎回レポートを出すのが苦痛だという声もある。せっかく区が講座を開いてくれているのもっと参加してほしいと思う。</p>
委員	<p>私どもの団体でも、今年から子どもの居場所に関する取組みを始めて、遊び・学び・料理を共にしたりしているが、今日話を聞いて、環境かるた等を使ったりして親子で環境の話をしていきたいと感じた。</p>
委員	<p>私は生物園が好きでよく利用している。老人や保育園の団体は見るが、小学生は理科の授業で利用しているのだろうか。あそこには珍しいホテル等もある。足立区には公園やビオトープもあるので、子どもたちはそういうものをたくさん利用したほうがよい。</p>
事務局	<p>生物園には子どもたちが多く来ているが、学校の授業として行っているのかどうかは把握していない。自然に親しむ施設はたくさんあるので、多くの子どもたちに使ってもらえるように PR していきたいと考えている。</p>
委員	<p>私は、今のお母さんたちの意識が弱いように思う。テレビで子どもが省エネを親に教える取組みを見たが、子どもたちが省エネの勉強をして親に教えていくということもあると思う。子どもを啓発することで親へも普及していく。幼児や低学年は道德の授業で教えられるのではないかな。</p> <p>私は町会で花を植えると補助金が出る制度を知らなかった。町会トップのメンバーが区から講習を受けて波及するという仕組みがない。また、町会費を払っても自分のためにならないと考えて、町会に入る人も減っているので情報が区民に伝わらないのではないかな。情報を区民の末端まで伝える制度を考えなければいけないと思う。</p>
副会長	<p>貴重なご意見に感謝する。まさにそれは永遠のテーマとして取り扱っていききたいと思う。</p>
委員	<p>人づくりの「重点3 自主的な環境活動を広げる」という点について、事業者・団体間の相互連携に関しては、例えば LINE のグループのようなイメージで、即座に見えるような情報共有を考えればいいのではないかなと思う。</p>

	<p>また、自然環境保全の重点2で「あだち自然ガイド」の投稿データが少ないという報告があったが、実際にスマートフォンで見たら写真しか見られなかった。いつどこを見たという情報も併せて見られるように改善してほしいと思った。また、区民参加型の調査は大事だと思うが、他の区ではどのように行われているのか。併せて生物多様性の保全の取組み事例等を紹介してほしい。</p> <p>生態系保護に関して、外来種の問題は重要な課題だと思う。多くの方はまちなかで見かける植物の中に外来種があちこちに混じっているという認識がない。生態系保護のためには外来種によって自然種が浸食されているという認識を持つことが大事である。これは足立でできることだと思う。</p>
事務局	<p>23 区内の生物多様性保護の計画の紹介は、次回までにペーパーでお示しさせていただきたい。</p> <p>区民参加型調査に関しては、見づらい部分を修正するなど、フィードバックの仕方等を工夫して、より活用が進むような方法を考えたい。ご意見を参考にさせていただく。</p>
副会長	<p>行政としての取組みやネットワークづくりを考えていかなければいけないと思う。</p> <p>続いて、審議事項3「第三次足立区環境基本計画の施策体系(案)」について、事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	<p>審議会資料5ページをご覧ください。事務局素案を提示し、6ページから表の形で整理した。今回は表中の「施策群の案」と「施策の案」の項目についてご議論いただきたい。「施策群の案」には網掛けで「エネルギー使用量を減らす」「エネルギーをつくる」「気候変動に備える」と記載したが、一応ストーリー性を持たせてある。例えば、「施策群の案」の「1-1 エネルギーの効率的な利用」に対応する「施策の案」として、専門部会からの提案を踏まえて「身近な省エネ行動の促進」「高効率な設備、機器への更新」「建物の省エネ性能の向上」「低炭素な交通手段への転換」を挙げた。「1-2 低炭素なエネルギーの利用拡大」は「太陽エネルギーの利用促進」「低炭素エネルギー導入可能性の検討」。先ほど木材利用の話が出たが、この「1-3 CO₂ 吸収量の増大と気候変動の影響への適応」で整理させていただきたい。</p> <p>7ページは「2 循環型社会の構築」で「リデュース」「リユース・リサイクル」「ごみの適正処理」の流れである。「2-1 廃棄物減量の推進」では「日常的なごみ減量行動の促進」「資源口</p>

スの削減」を挙げた。食品ロスについてはここで整理したい。「2 - 2 持続可能な資源利用への転換」では「身近なリユースを促すしくみづくり」「資源化品目の拡充とリサイクルを促すしくみづくり」「水循環の推進」を挙げた。「2 - 3 廃棄物の適正処理」と「排出指導の徹底とごみ集積所の美化」「事業系廃棄物の処理責任の徹底と適正処理の向上」「社会状況の変化に即した適正処理のしくみづくり」「災害廃棄物の対策強化」を挙げた。には「排出指導の徹底」となっているが、「指導」は悪いことが前提となった表現なので「排出ルール」に修正をお願いする。

8ページの「3 安全安心で快適なくらしの確保」は、公害やまちづくりの部門である。安全安心な生活環境を維持して美しい生活環境を作るという流れである。「3 - 1 生活環境の保全と公害対策の推進」では「工場、事業場等への公害規制指導」「大気、水質、騒音等の定期的な調査」「公害苦情の相談への対応」「土地、建物の適正な管理の推進」を挙げた。「3 - 2 快適で美しいまちづくり」では「安全、快適を実現する計画的なまちづくりの推進」「美しいまちの創出と維持」を挙げた。

9ページは「4 自然環境・生物多様性の保全」である。知ってふれ合い、学び取組んで、守る・創るという流れである。「4 - 1 自然や生物とふれあう機会の提供」は「自然や生物への関心を高める取組みの推進」「自然体験や生物とふれあう機会の充実」である。「4 - 2 生物多様性への理解と取組みの促進」は「生物多様性に対する理解の促進」「区内の身近な生物の調査と生息環境の保全」を挙げた。「4 - 3 多様な生きものが暮らす自然環境の保全と創出」では「緑地、樹木、農地、河川等の自然環境の保全」「生物多様性を考慮した緑化や公園等の整備と維持管理」という施策を挙げた。

10ページは「5 学びと行動のしくみづくり」で、知る・学ぶ・広げるというストーリー性を持って施策群を組み立てた。「5 - 1 環境情報の発信と環境意識の向上」は「環境に関する情報の発信」「環境への意識を高める場や機会の効果的な提供」を挙げた。「5 - 2 環境学習の推進と人材育成」は「幼児向け環境学習の推進と体験の機会の提供」「小中学生向け環境学習の充実」「大人向け環境学習の推進と人材の育成」を挙げた。「5 - 3 環境保全活動の拡大」では「環境に配慮した行動を促すしくみづくり」「環境保全活動のネットワークづくり」を挙げた。

	審議事項3について以上である。
副会長	施策体系の表の施策群についてご審議いただきたい。
委員	体系は満足している。森林保護、木質化、創エネの観点も盛り込まれている。必要な施策もきちんと入っている。例えば、エネルギーの使用量を減らす、生み出す、気候変動に備える、とスローガンもわかりやすくよいと思う。強いて挙げれば、廃棄物のところで、リデュース、リユース、リサイクル等の言葉は知らない区民も多いので、そのあたりの工夫は今後も必要だと思う。
副会長	私もよくできていると考えている。
委員	過去の審議会等の議論を踏まえてこのような素案を作っていたと思う。主な取組みの例示は、今後変更があると聞いているが、「2 循環型社会の構築」の2 - 3に「集積所の美化対策」「新たな清掃事業のあり方や家庭ごみの有料化についての検討」が挙げられている。足立区はビューティフル・ウィンドウズ運動等に力を入れているが、最近では区民からも不法投棄等の集積所のマナーの悪さが指摘されている。全国でも62%ぐらいは家庭ごみの有料化を実施しているが、ここに載せたのは有料化が今後の有効な手法と考えているからだろうか。
事務局	ごみ減量推進課長がお答えする。一般廃棄物処理基本計画にも「有料化」という言葉を載せている。やるやらないは別問題として、ごみを減らす一つの手法であるかもしれない。足立区単独でできるのかといったことも含めて、いろいろな角度から議論したほうがよいということでここに載せた。
委員	集積所の美化対策はマナーの問題だが、区としても不法投棄防止のステッカーを用意するなどさまざまな対策をとっていると思う。この辺はいかがか。
事務局	集積所の美化には不法投棄と出し方のマナーの二つがある。今も職員を中心に適切に指導している。大切なことなので、新しく環境基本計画を作る中でも大事なポイントになると考えており、力を入れてやっていきたい。
委員	不法投棄の件だが、以前町会で「ストップ・ザ・不法投棄」というパネルが配られたが効果があった。そういうものもよいのではないかと思う。周知徹底する方法をぜひ考えていただきたい。町会加入者は全世帯の50～60%だが、その方たちにも浸透していない。先ほどのビラのようなものでもよいので、その方たちに配っていた

	だきたいと思う。
副会長	今後、具体的な取組みを考えていかなければいけない中で、貴重な意見をありがとうございました。
委員	<p>「3 安全安心で快適なくらしの確保」の3 - 2に美しい生活環境を作るという項目がある。私は区役所の近くに住んでいるが、空き地の雑草がひどく虫がわいているところが何か所がある。自主的に草刈りをしている住民もいるが、ボランティアを募るなど行政でも考えてほしい。また、蚊の対策もしてほしい。</p> <p>「2 循環型社会の構築」の2 - 1「資源ロスの削減」でフードバンクの活用が挙げられているが、先日の環境展でもフードドライブをやったところ大変好評だった。ところが近所の町会役員に話したら、やっても無駄だと言って歩いている人がいるという。その辺の意識に問題があると思った。</p>
副会長	今後の具体的な取組みに対するヒントがあるように思う。
委員	「3 安全安心で快適なくらしの確保」の「安全安心な生活環境の確保」というところだが、現在、空き地や空き屋がたくさんある。先日ガスの匂いがしたので点検をしたがなかなか見つけれなかった。空き屋には入れないので非常に怖い。
事務局	それも一つの課題だと思う。
委員	「2 循環型社会の構築」の2 - 3に「災害廃棄物の対策強化」とある。九州の事例もあるので、ここに打ち出しているのは大変よいと思った。ぜひお願いしたいと思う。また、2 - 3に「水循環の推進」とあるが、中川が近いので緊急連絡はすぐに町会長・副会長に流れるようになると言われている。中川は以前切れたことがあり、豪雨のときには切れそうになったこともあるので、「水循環の推進」はぜひ推進していただきたい。
副会長	水についてはハザードマップ等も揃えていると思う。
事務局	危機管理室で水系ごとのハザードマップを作っている。水系を時間的に見てどうなっているか確認したりして備えており、多面的に強化している。
副会長	<p>審議事項はここまでとさせていただきます。施策体系については、本日の審議会でもいただいたご意見を踏まえて事務局でさらに中身を深めていただく。次回の審議会でもさらに協議していくことになると思うので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>次に、報告事項について二つまとめて事務局より説明をお願いします。</p>

事務局	<p>審議会資料 11 ページ「報告事項 1 2015 年度の区内のエネルギー使用量について」。昨年度の区内のエネルギー使用状況のデータを東京電力パワーグリッド株式会社及び東京ガス株式会社から提供されたので報告させていただく。足立区内の電気使用量は、電灯・電力を合わせて 23 億 9,863 万 7 千 kWh で、前年度比 2.4% 減、2010 年度比では 14.8 減というかたちで省エネが進んでいる。ガスに関しても、2015 年度使用量は 1 億 3,003 万 m³ で前年度比 3.5% 減、2010 年度比 6.2% 減という結果が出ている。ただ、目標達成率に関しては、今年の冬が暖冬であった等の条件も考慮しなければならないと考えている。</p> <p>12 ページ「報告事項 2 地球環境フェア 2016 の開催結果について」。</p> <p>今年度は「ふれる、芽生える、エコごころ」というサブタイトルで実施した。来場者は 2 日間で 21,800 人、前年度（22,000 人）よりは若干少ないが、我々としては盛況であったと考えている。このフェアで出る CO₂ については、森林整備により CO₂ 吸収量をするカーボン・オフセットのクレジットを購入することでカーボンゼロのイベントにした。主なイベントとして、オープニングセレモニーを 5 月 28 日中島根小学校コーラス部のご協力を得て開催し、カーボン・オフセット証明書の交付等も行った。また、今年は国立科学技術館から出張していただいて庁舎ホールで地球環境展を行った。こどもフリーマーケットは今年初めて開催した。フードドライブも行い皆様方からご協力をいただいた。各区や秋田県八峰町、新潟県阿賀町、高知県等々の自治体からも参加していただいた。</p>
副会長	報告事項について、ご質問、ご意見等があればお願いします。
委員	要望だが、環境フェアで行ったフードドライブについて、とてもいいという声があった。居場所を兼ねた学習支援等への食料提供等の活用もできるかと思うので、毎年の環境フェアも含めて区庁舎で行われるイベント等でも定期的実施していただければよいと思うが、いかがだろうか。
事務局	地球環境フェアでは今後も実施したい。9 月 4 日に行われる「あだち再生館祭」でもフードドライブを行う予定である。
委員	補足だが、子どもの居場所づくりでは、日頃から食料等を提供したいという方のための仕組みづくりを考えている。
委員	環境フェアは毎回盛会で何よりだと思う。子どもフリーマーケットは子どもの意識啓発のために実施していると思うが、どんな学校

	から参加しているかといった把握はしているのだろうか。
事務局	今回は庁舎ホールで開催したので区画が決まっていた。申し込み後抽選で 20 区画を決定したので、参加者のデータは持っている。今後どのような広がりを見せていくかについては検討させていただきたい。
委員	環境フェアには毎年 2 万人を超える来場者があるが、子どもたちに理解してもらうためには人数だけではなく、内容にも力を入れていただきたい。
副会長	次に「その他」ということで事務局にお願いする。
事務局	次回審議会は 9 月 7 日午前 10 時開催を予定している。 本日午後は、気象庁東京管区気象台のご協力で見学会を予定しているので、ご出席の方は午後 1 時にお集まりいただきたい。
副会長	以上で本日の議題は終了した。委員から何かないだろうか。 それでは、これをもって平成 28 年第 2 回足立区環境審議会を終了する。

(会議録署名)

平成 28 年度第 2 回環境審議会会議録記録署名員
(平成 28 年 7 月 29 日 開催)

副 会 長	百田真史
署 名 委 員	ぬかかい 和子
署 名 委 員	長谷川 京子